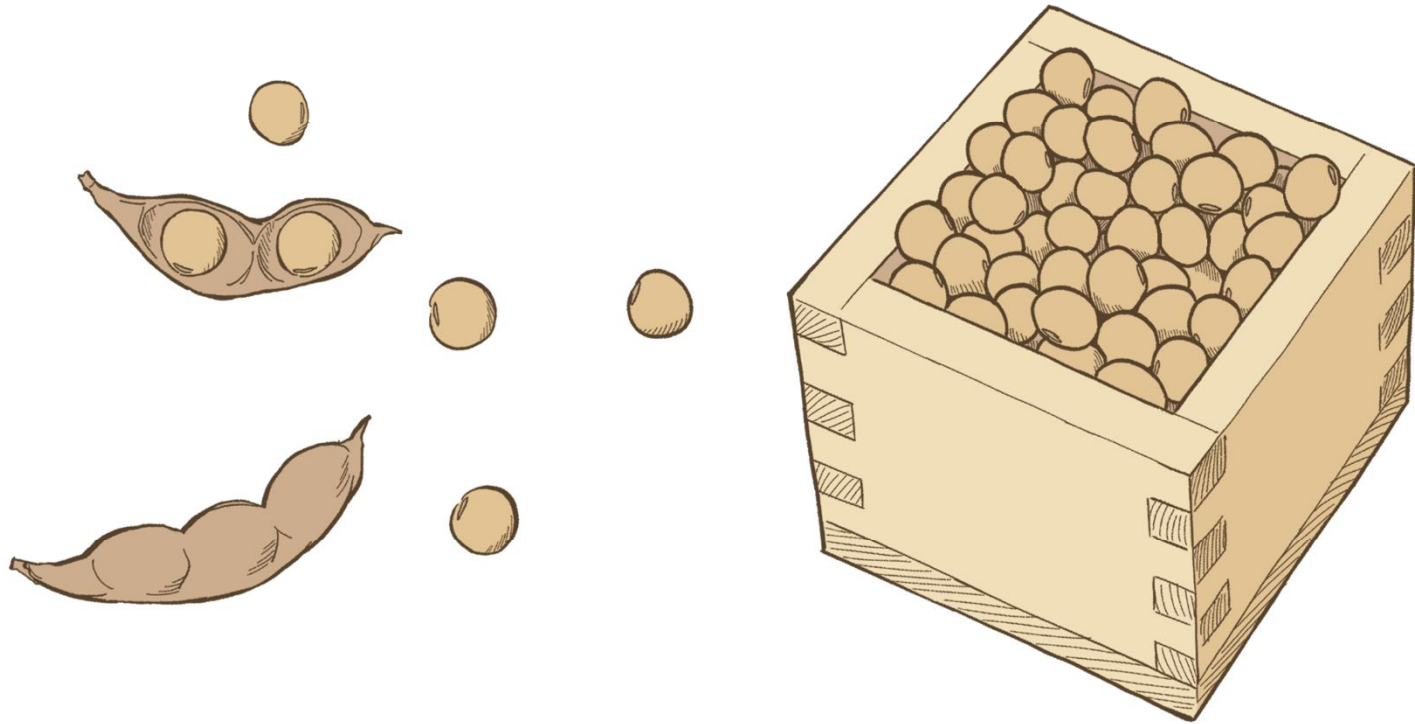


# 関東の大豆をめぐる事情について



令和8年1月

関東農政局生産部生産振興課

# 1 大豆の需給動向(全国)

- 大豆の需要量は、令和6年度は約359万トンとなった。食品用についても需要は堅調であり、近年は約100万トンで推移している。
- 国産大豆は、実需者から味の良さ等の品質面が評価され、ほぼ全量が豆腐、煮豆、納豆等の食品向けに用いられる。

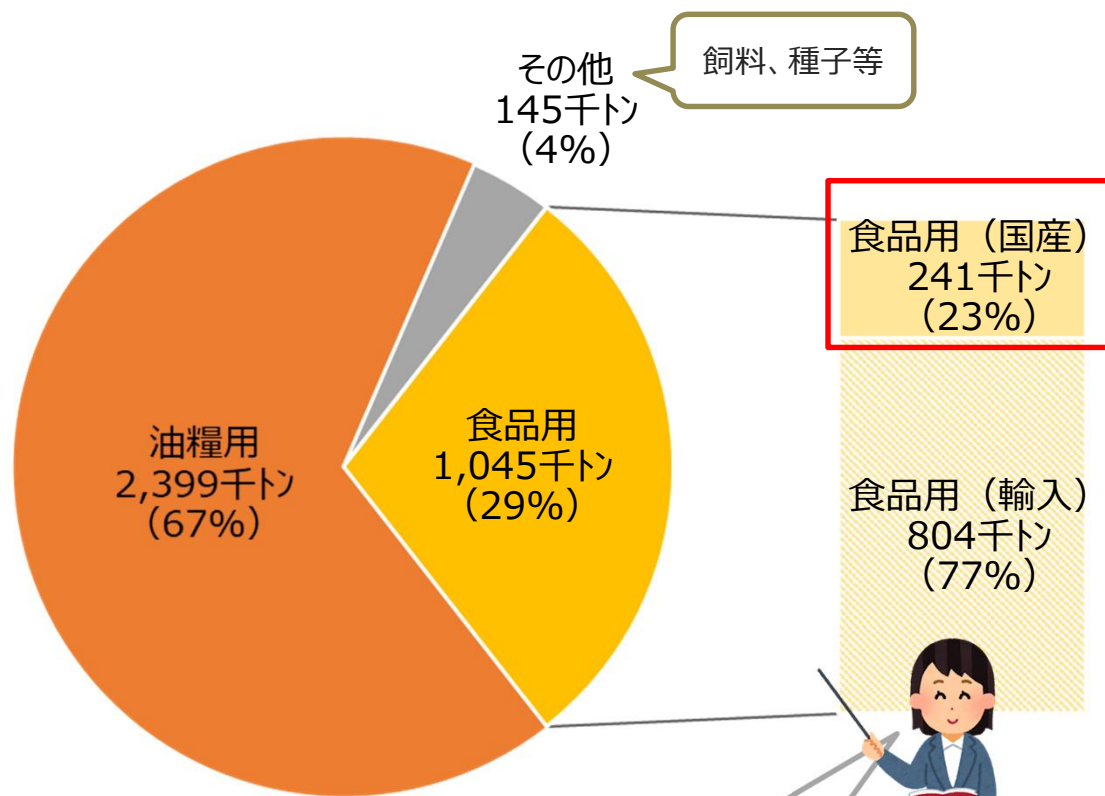
## ○ 我が国における大豆の需要状況

	需要量 (単位：千トン)	うち食品用			自給率
		うち国産	うち国産割合		
令和元年	3,683	1,030	210	20%	6%
令和2年	3,498	1,053	211	20%	6%
令和3年	3,564	998	239	24%	7%
令和4年	3,894	999	234	23%	6%
令和5年	3,562	1,030	252	24%	7%
令和6年 (概算値)	<b>3,589</b>	<b>1,045</b>	<b>241</b>	23%	7%

出典：食料需給表

注：「うち国産」は穀物課推定。なお、「うち国産」に種子分は含めていないが、「自給率」は種子分を含めて算出している。

## ○ 我が国の大豆の需要量（令和6年）



出典：食料需給表

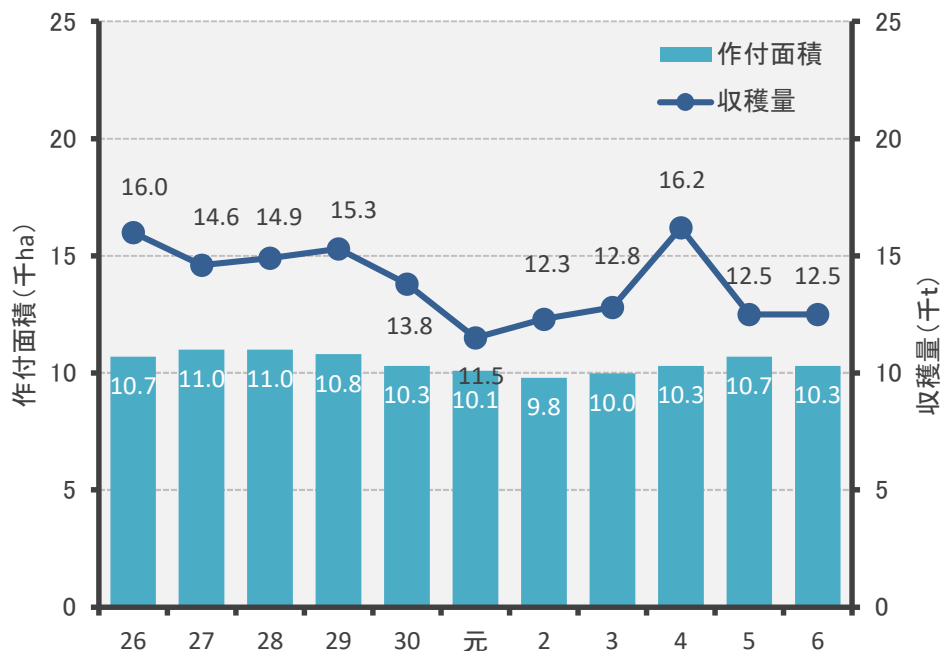
注：四捨五入の関係で、100%に一致しない場合がある。

国産大豆の需要量は増加傾向に推移しています。

## 2 作付面積及び収穫量の推移

- 管内産大豆の収穫量は、令和元年まで減少傾向に推移し、その後ゆるやかに回復している。令和4年は天候にめぐまれ、収穫量が増加したものの、令和5年産・令和6年産は高温干ばつ等の影響により収穫量は減少。作付面積は多少の変動はあるもののほぼ横ばいで推移している。
- 令和6年産の都県別の生産状況を見ると、作付面積、収穫量ともに、茨城県、栃木県、長野県の3県で管内全体の約8割を占めている。

○管内における大豆の作付面積と収穫量の推移



資料：農林水産省「作物統計」



全国の作付面積のトップ3は北海道、宮城県、秋田県です。関東で最も作付面積が大きい茨城県は全国で14番目に位置しています。

○管内各都県における大豆の作付面積及び収穫量(令和6年産)

都県名	作付面積 (ha)	作付面積 管内での割合 (%)	収穫量 (t)	収穫量 管内での割合 (%)
茨城	3,300	32.0	3,730	29.8
栃木	2,630	25.5	3,310	26.5
群馬	273	2.7	235	1.9
埼玉	667	6.5	547	4.4
千葉	821	8.0	1,180	9.4
東京	4	0.0	5	0.0
神奈川	37	0.4	37	0.3
山梨	203	2.0	199	1.6
長野	2,220	21.6	3,150	25.2
静岡	184	1.8	85	0.7
管内	10,300	100.0	12,500	100.0
全国に占める 管内の割合	6.7%	—	5.0%	—
全国	153,900		252,400	

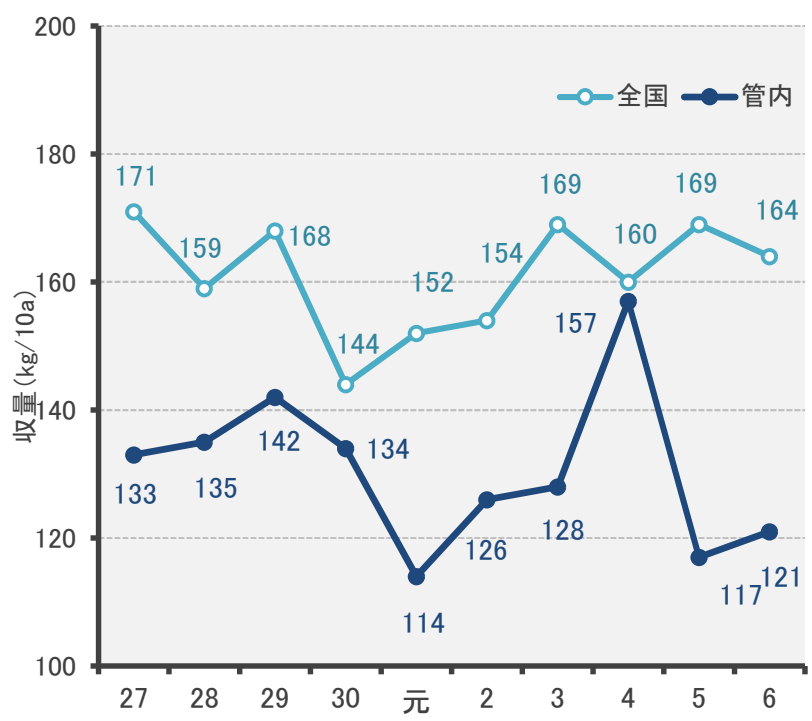
資料：農林水産省「作物統計」

(注)ラウンドの関係で合計と内訳が一致しない。

### 3 単収の推移

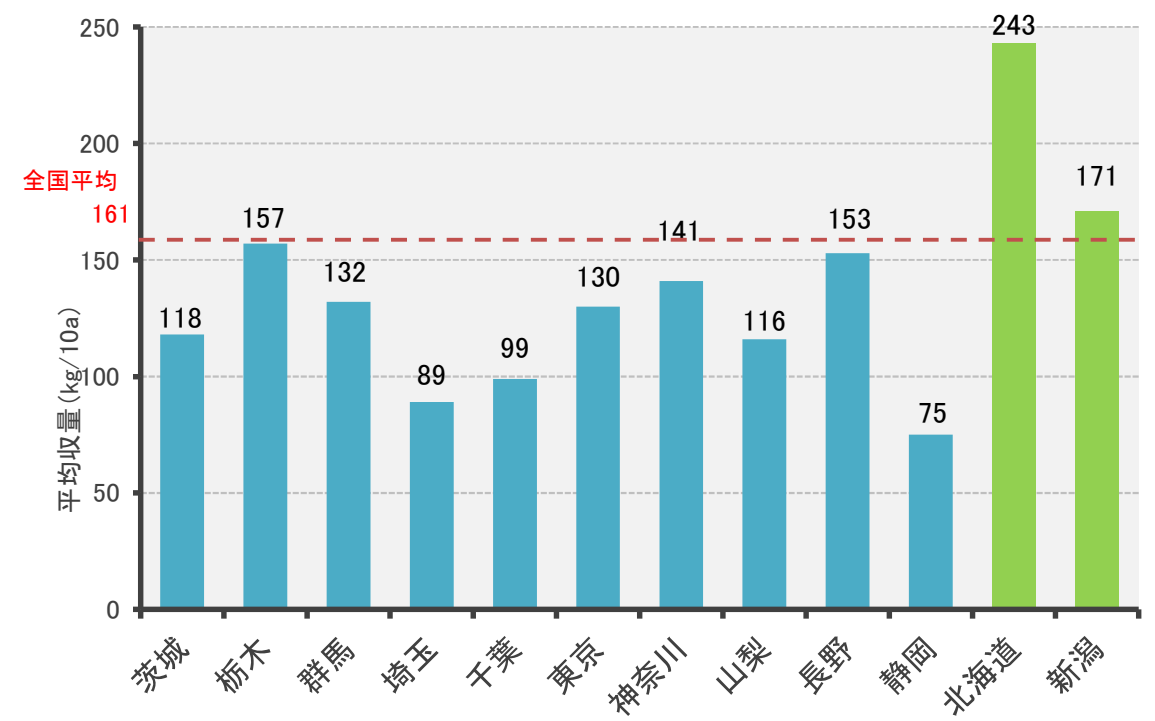
- 管内産大豆の10アール当たり収量(単収)は、令和元年から令和3年まで全国平均を大幅に下回っていたが、令和4年では天候にめぐまれ、全国平均に迫る収量となった。令和5、6年は全国的には豊作である一方、管内においては高温・干ばつ等により 収穫量が伸びなかったことから、全国平均を下回った。
- 10アール当たりの平均収量は、全国平均である161kg/10aに対してすべての都県で全国平均を下回る状況にある。全国中、最も平均収量が多いのは北海道(243kg/10a)であり、次いで新潟県(171kg/10a)である。

○管内産大豆の10アール当たり収量の推移



資料:農林水産省「作物統計」

○管内産大豆の10アール当たり平均収量

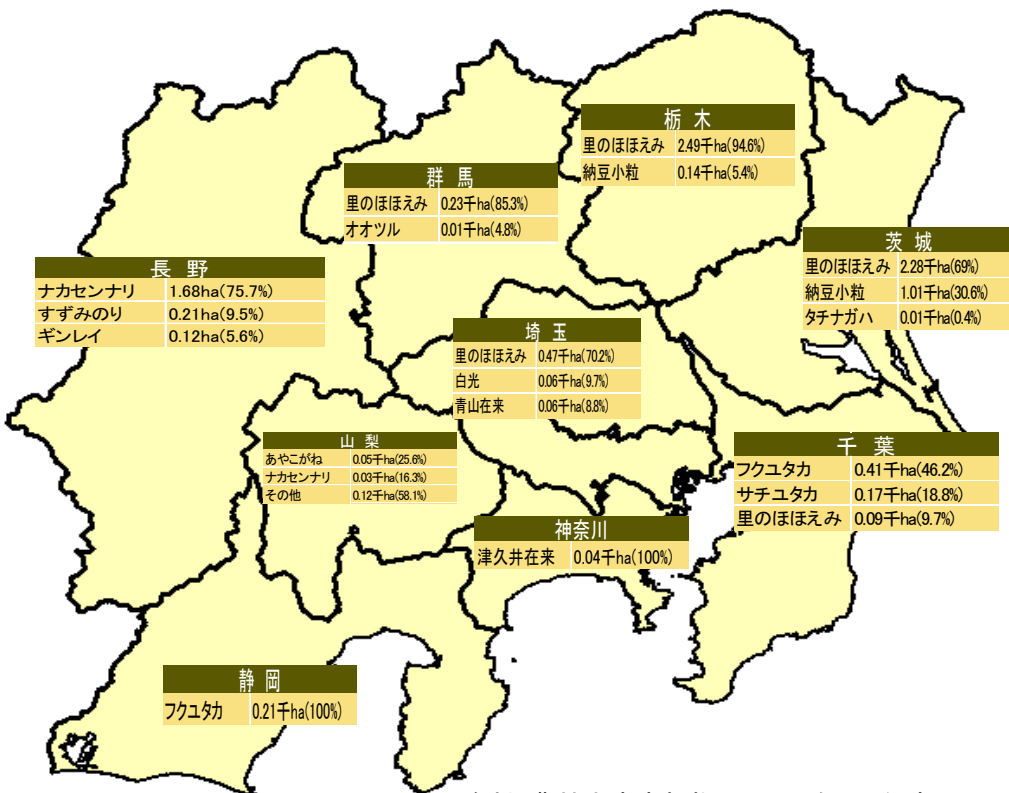


資料:農林水産省「作物統計」  
 (注)平均収量とは、直近7か年のうち、最高及び最低を除いた5か年の平均値をいう。

## 4 各県で作付けされている大豆の主要品種

- 倒れにくく大粒良質で高タンパクな豆腐向けの「里のほほえみ」は、安定生産が見込める品種として作付推進され、茨城県・栃木県・群馬県・埼玉県において作付1位となっている。また、千葉県や静岡県では豆腐向けの「フクユタカ」、山梨県では豆腐・味噌向けの「あやこがね」、長野県では豆腐向けの「ナカセンナリ」の作付が1位となっている。
- また、茨城県や栃木県では、納豆向けの「納豆小粒」が作付けられており、埼玉県では「白光」や「青山在来」、神奈川県では「津久井在来」といった在来種が作付けられている。

### ○各県で作付されている大豆の主要品種



資料：農林水産省穀物課調べ（令和6年産）

### ○用途別に国内産で求められる品質

**豆腐**

<求められる特性>

- ▶ タンパク質含有量が多い
- ▶ 炭水化物含有量が多い

<代表的な品種銘柄>

- ▶ 里のほほえみ ▶ ナカセンナリ ▶ フクユタカ



**納豆**

<求められる特性>

- ▶ 粒揃いがよい
- ▶ 裂皮が少ない

<代表的な品種銘柄>

- ▶ 納豆小粒 ▶ ナカセンナリ



**煮豆**

<求められる特性>

- ▶ 外觀がよく大粒
- ▶ 蒸した際に旨味を逃がさない

<代表的な品種銘柄>

- ▶ タチナガハ ▶ オオツル



**味噌**


<求められる特性>

- ▶ 蒸煮した際の色調がよい


<代表的な品種銘柄>

- ▶ ナカセンナリ ▶ あやこがね





- A社** 蒸煮に適した柔らかさを持つこと
- B社** タンパク質含量少なく、発酵に適した糖質があること
- C社** ヘその目の色がないもの



**【ミニコラム】**  
大豆の「へそ」とは豆（子実）がさやに繋がっていた部分です。



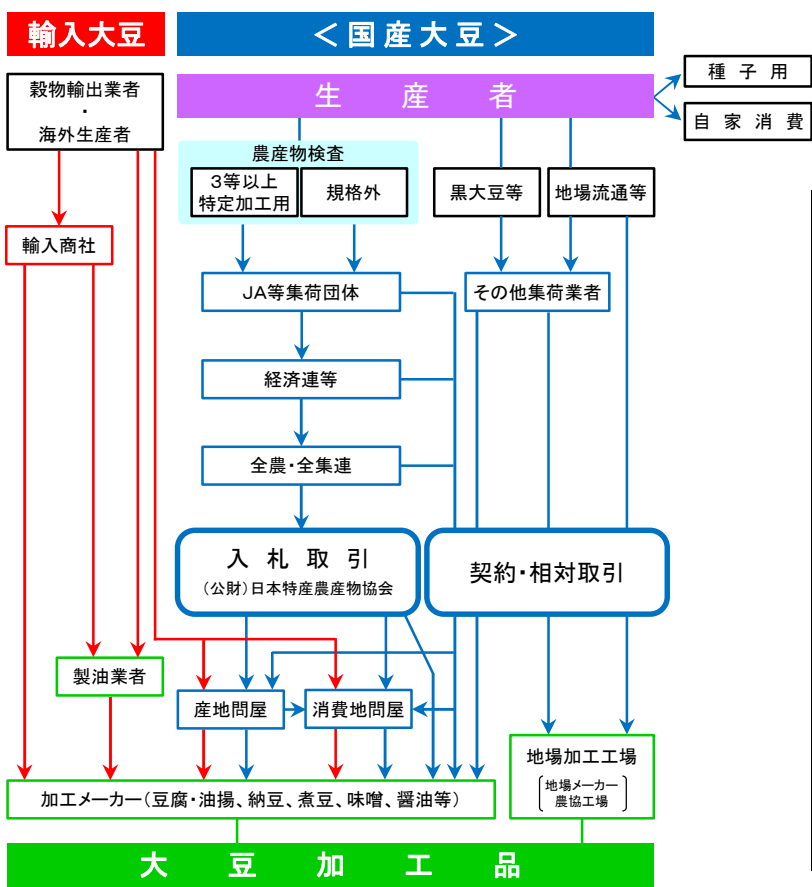
この部分



# 5 大豆の流通と価格の推移

- 大豆の流通は、国産品・輸入品とも民間ベースの自由な流通が前提となっている。
- 国産大豆の販売は大きく分けて入札販売、相対販売、契約栽培の3つがあり、令和6年産はそれぞれ14%、34%、52%の割合となっている。
- 令和6年産大豆の全国平均価格(円/60kg)は8,066円となっており、管内産大豆では栃木県、群馬県の「里のほほえみ」を除き、全国平均を上回っている。

## ○国内産大豆の流通



## ○ 国産大豆の販売状況

資料:大豆をめぐる事情(令和7年12月農林水産省)

	入札販売	相対販売	契約栽培
令和6年産	14%	34%	52%

## ○ 大豆の落札価格(税抜)の推移

産地	品種銘柄	粒別	28年産	29年産	30年産	元年産	2年産	3年産	4年産	5年産	6年産
茨城	里のほほえみ	大粒	8,147	7,916	7,610	10,079	11,611	9,507	9,121	8,011	8,073
	タチナガハ	大粒	8,290	7,915	-	-	11,113	-	-	-	-
	納豆小粒	小粒	11,844	10,456	10,975	12,000	8,914	9,455	-	8,700	9,225
	納豆小粒	極小粒	11,919	10,871	10,359	12,000	8,592	9,261	-	-	9,300
栃木	里のほほえみ	大粒	8,204	7,759	7,917	10,325	11,587	9,070	8,770	8,451	7,947
	里のほほえみ	中粒	-	-	-	9,334	10,508	8,144	8,445	-	7,654
群馬	里のほほえみ	大粒	-	-	-	9,475	10,060	8,170	7,919	-	7,900
	タチナガハ	大粒	8,240	7,220	7,560	-	-	-	-	-	-
千葉	フクユタカ	大粒	8,728	8,420	8,347	-	-	-	8,780	-	-
長野	ナカセンナリ	大粒	8,684	8,003	8,487	10,111	11,646	8,805	8,459	-	8,238
	ナカセンナリ	中粒	8,300	7,572	7,789	10,434	11,700	9,530	8,425	9,015	8,115
全国平均(加重平均)			9,364	8,202	9,124	10,346	11,295	9,709	9,474	8,393	8,066

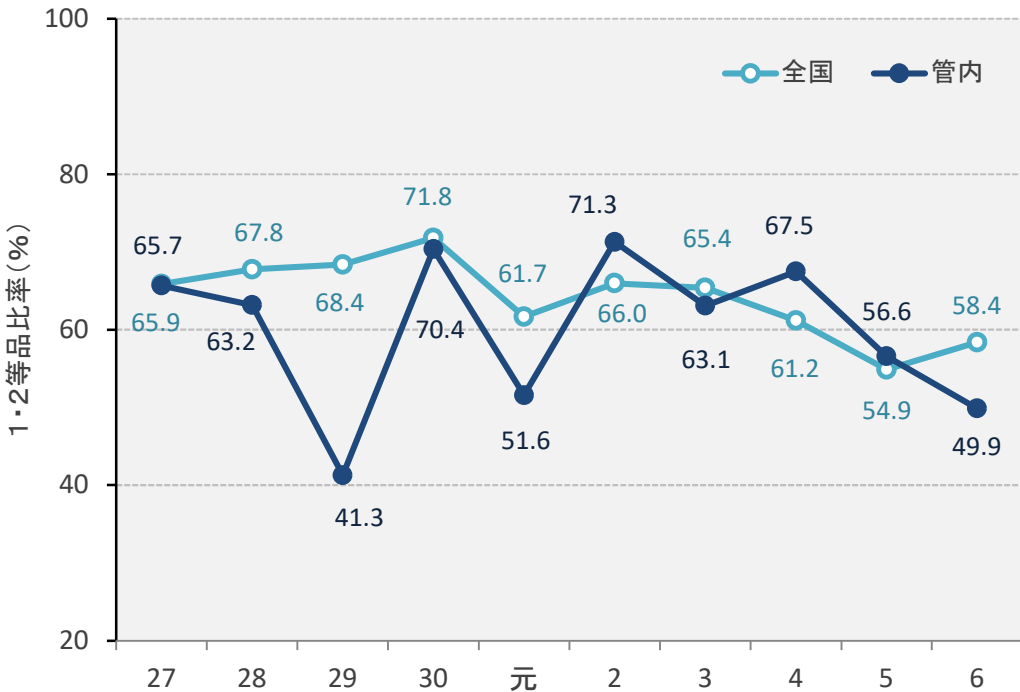
資料:(公財)日本特産農産物協会「大豆入札取引の結果」による  
 (注)平均落札価格は落札ロットに係る落札金額の総計を落札数量の総計で除して求めた値で、落札数量で重み付けした落札価格の加重平均値である(消費税、運送経費を含まない)。

# 6 品質(検査等級)

○ 管内産大豆の農産物検査結果を見ると、令和6年産において上位等級の1・2等比率は全国を下回る状況。(−8.5ポイント)

○ なお、令和6年産の3等以下に格付けされた主な理由は、粒の充実度等の「形質不良」、「しわ粒」が多くなっており、天候不順の影響のほか、不十分な肥培管理、収穫期の遅れ等、生産技術に起因していると考えられる。

○大豆(普通大豆)の1・2等品比率の推移



資料:農林水産省「大豆の検査結果」  
 (注)本比率は、普通大豆のうち、大粒大豆、中粒大豆、小粒大豆、極小粒大豆の検査成績を合計した値から算出した。

(参考)大豆の等級別の品位

(最高限度(%))

		水分	被害粒等
普通大豆	1等	15.0	15
	2等	15.0	20
	3等	15.0	30
特定加工用大豆		15.0	35

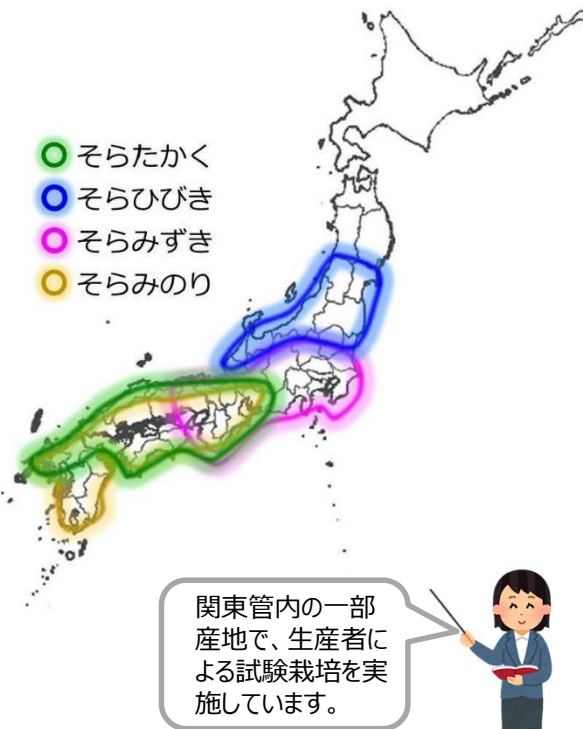
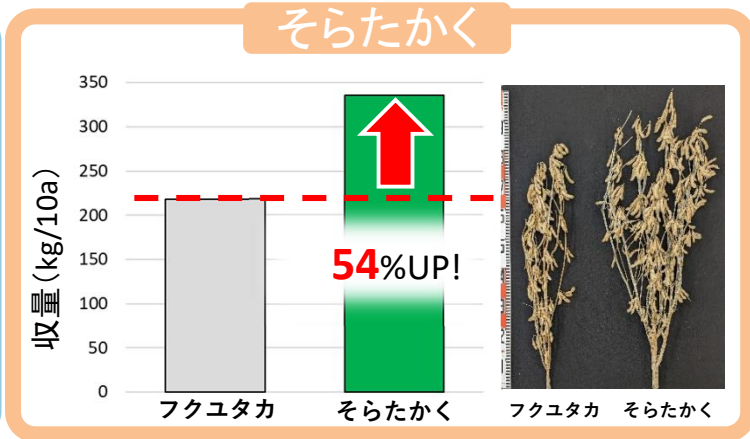
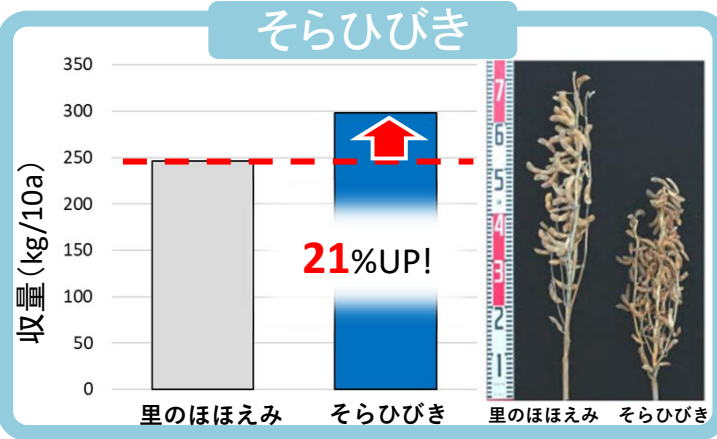
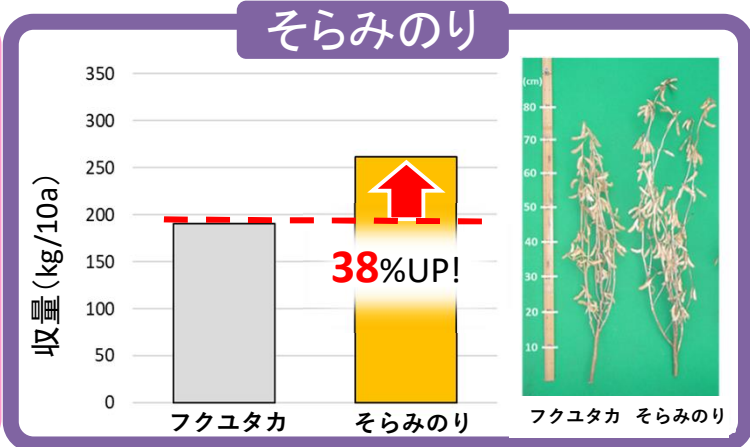
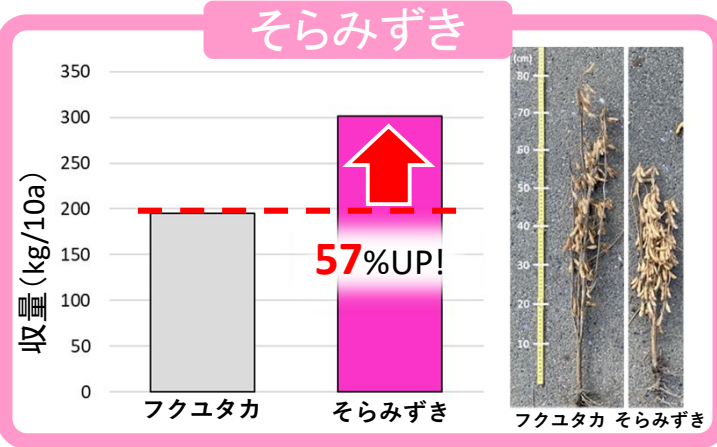
- (注)
- 「特定加工用大豆」とは、豆腐、油揚げ、醤油、きな粉等製品の段階において大豆の原形をとどめない用途に使用される大豆をいう。
  - 特定加工用大豆は、豆腐等の品質に影響を及ぼさない程度の被害粒(皮切れ粒、しわ粒等)はカウントしない。

# 7 普及が期待される主な新品種

- 農研機構は、多収の米国品種と加工適性が高い日本品種を交配し、国内で普及している品種と比較して2割以上多収で、豆腐等への加工適性を有する新品種「そらみずき」、「そらみのり」、「そらひびき」、「そらたかく」を育成。
- 4品種とも、莢が弾けにくい性質（難裂莢性）を持ち、収穫時の脱粒損失等を抑制。
- 栽培適地は、「そらみずき」は関東～近畿地域、「そらみのり」は東海～九州地域、「そらひびき」は東北南部～北陸地域、「そらたかく」は東海～九州地域。
- 本州から九州の多くの産地をカバーし、国産大豆の安定生産と供給を加速化することが期待。

<既存品種（フクユタカ、里のほほえみ）との比較(平均収量、草丈) データ・写真：農研機構 提供>

<栽培適地 図：プレスリリース(農水省)>



関東管内の一部産地で、生産者による試験栽培を実施しています。

注1：平均収量の比較は、は生産者ほ場における現地実証試験の結果（「そらみずき」については、三重県、兵庫県における3試験の平均、「そらみのり」については、三重県、兵庫県、熊本県における5試験の平均、「そらひびき」については、石川県における3試験の平均、「そらたかく」については、兵庫県、福岡県における3試験の平均）。

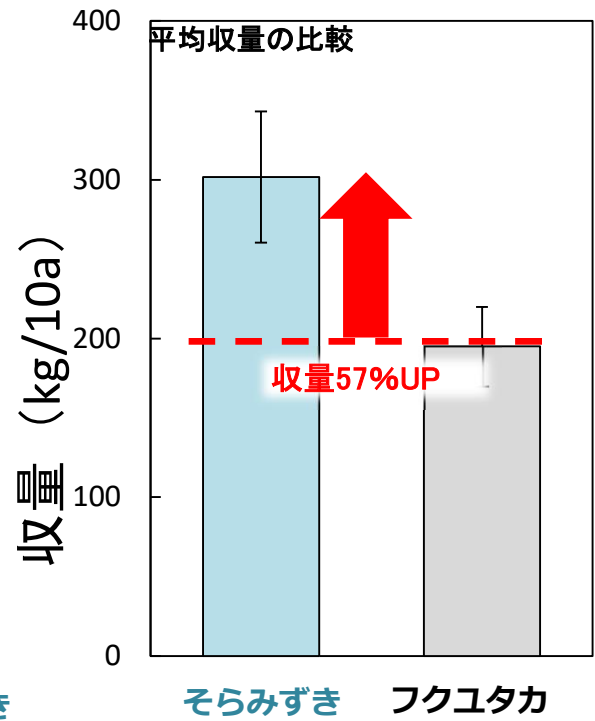
注2：草丈及び子実の外観の比較は、「そらみずき」については、三重県現地実証ほ場試験、「そらみのり」については、熊本県の育成地ほ場試験の結果。草丈の外観の比較は、「そらひびき」については、秋田県育成地ほ場、「そらたかく」については、香川県の育成地ほ場試験の結果。

# 7-1 普及が期待される新品種「そらみずき」について

- 農研機構は、収量が高い米国品種と加工適性が高い日本品種との交配から、既存品種と比較して多収が見込まれ、豆腐等加工適性を有する新品種「そらみずき」を育成(令和5年11月7日プレスリリース)。
- 特徴として、成熟した莢がはじけにくい性質(難裂莢性)と、細菌による葉焼病に対し抵抗性を有する。
- 栽培適地は関東～近畿地方となっており、国産大豆の安定生産と供給に貢献することが期待される。

## 新品種「そらみずき」の特徴

データ・写真:農研機構 提供



そらみずきは葉焼病に対し“抵抗性”があり、粒大や収量減少を抑制。



そらみずきの裂莢性は“難”であり、収穫時の脱粒損失等を抑制。  
(注: 60°Cで3時間の熱風処理)

### 豆腐への適性

豆腐加工適性試験の結果から豆腐に利用できると評価

	タンパク質含有率 (%)	豆乳抽出率 (%)	豆腐の硬さ (g/cm <sup>2</sup> )
フクユタカ	43.4	79.2	75.3
そらみずき	41.3	79.5	66.8



豆腐試作品

- ・「フクユタカ」より主茎長は短く、莢が多い
- ・「フクユタカ」より成熟期は1週間程度早い

注1: 草姿の比較は、三重県現地ほ場試験の結果  
注2: 平均収量の比較は、生産者ほ場における現地実証試験の結果  
(三重県、兵庫県における3試験の平均)

# 8 今後の大豆の生産振興について

## 関東における特徴

○ 関東における大豆作は、茨城、栃木、長野県が中心であり、栃木県、長野県では水稲－麦－大豆の2年3作体系、茨城県では麦－大豆の1年2作体系に取り組んでいる地域が多い。

### 現状・課題

○ 近年、大豆については、主産県を中心に作付面積が減少しているところ。

	H24	R6	
茨城県	4,080	3,300	▲19.1%
栃木県	2,710	2,630	▲2.9%
長野県	2,200	2,220	0.9%
3県計	8,990	8,150	▲9.3%

○ 作付面積の減少については、気象要因に加えて、

- ① 高齢化等に起因する労働力不足により適期作業が行えない
- ② 作付けほ場の固定化による地力の低下、土壌病虫害等の発生
- ③ 排水性が悪い等土地条件が大豆に不向きなほ場での作付け等の要因により収量・品質が低下・不安定化していることから、農業者の経営判断として、交付単価の高い新規需要米や、作業負担が比較的少ないそば等へ転換していることが原因。



### 今後の方向

○ 近年、大豆は健康志向の高まりにより需要が堅調に伸びており、令和7年4月に閣議決定された食料・農業・農村基本計画においても、生産努力目標を26万トン(令和5年度)から39万トン(令和12年度)へと、大きく引き上げている。

- こうした大豆生産の目標を達成するために、以下を推進。
  - ① 大区画化や汎用化・畑地化等の基盤整備、スマート農業技術等を活用した効率的な栽培体系による適期作業の推進、極多収品種普及促進と更なる開発の加速化、排水対策等営農技術の開発と導入
  - ② 国産大豆を使用した商品開発等を推進、国産への切替えや国産の更なる利用拡大を促進
  - ③ 産地等へのフレコン充填設備等の導入を促進、調整保管能力を向上させるため、ストックセンターの整備等に対して支援
  - ④ 輸入相手国との良好な信頼関係の維持・強化、輸入事業者が有する調達網に対する投資の促進

○ 大豆については、単収の向上が農家の所得の確保につながるため、関東農政局主催で、栽培技術の向上等を図るための大豆セミナーを毎年開催。

令和7年度 関東農政局

# 大豆セミナー



参加費  
無料  
要事前申込

～ 国産大豆で食と農をつなぐ! ～

近年需要が高まっている国産大豆の収量・品質の確保のため、関東管内の大豆産地が行っている生産性向上等に向けた取組、高温・干ばつ対策の参考となる栽培管理技術を紹介します。また、実需者ニーズに応じた生産が重要であるため、実需者の求める大豆に関する情報提供を行います。

【日 時】 令和 8年 2月 27日 (金) 13:30～15:15

【開催方法】 オンライン開催

【参加申込】 申込締切 令和 8年 2月 20日 (金)まで

参加をご希望の方は下記URLもしくは二次元バーコードよりお申込みください。

<https://forms.office.com/r/W4TaKEiNXr>



## 【内 容】

1. 那須地方における大豆生産の現状及び課題とそれらの解決に向けた取組事例
  - 栃木県 那須農業振興事務所 経営普及部 農産課 技師 伊東 稜真 氏
2. 大豆の高温障害について (大豆の高温障害を整理する: 国内外の知見と課題)
  - 国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構  
農業環境研究部門 気候変動適応策研究領域 上級研究員 熊谷 悦史 氏
3. 干ばつに対応するための栽培技術について
  - 国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構  
東北農業研究センター 緩傾斜畑作研究領域長 高橋 智紀 氏
4. 実需者が求める大豆について
  - 弓削多醬油株式会社 代表取締役 弓削多 洋一 氏



## ■ お問い合わせ先

関東農政局生産部生産振興課



048-740-1011

## ■ 共催 農林水産省関東農政局 (一社) 全国農業改良普及支援協会

※ 複数お申込みの場合は、お手数ですが、お一人ずつ記載事項の記入をお願いいたします。

※ 登録されたメールアドレス宛に本セミナー参加用URLを送付します。

※ 参加用URLの使用は本人限りとし、転送・公開しないでください。

※ 録音・録画はご遠慮願います。

※ お申込みいただいた個人情報につきましては適切に管理し、本イベント以外には使用いたしません。

※ 報道関係の方で取材を希望される方は、取材を希望する旨をその他の欄に明記の上、お申込みください。



EXPO  
2027  
YOKOHAMA JAPAN

食と農で  
明日をつくる

## 10 全国豆類経営改善共励会 過去の関東管内の受賞者と優良事例

- 生産技術の向上、経営改善の面から、先進的で他の範となる経営体及び生産集団を表彰し、その成果を広く紹介するため、全国豆類経営改善共励会が実施されており、令和4年度においては関東管内から応募された生産者が農林水産大臣賞を受賞。

### 全国豆類経営改善共励会 (令和7年度)

第54回(令和7年度)全国豆類経営改善共励会

先進豆農家を表彰

農林水産大臣賞  
受賞者は  
農林水産祭に  
参加できます

申込締め切り

令和8年 1.19月

実施要領(裏面)をご参照の上、  
都道府県共励会事務局へお申し込みください。

部門

- 大豆 家族経営の部
- 大豆 集団の部
- 小豆・いんげん・落花生の部

表彰式

令和8年6月下旬  
東京都内で開催(予定)

主催 一般社団法人 全国農業協同組合中央会 株式会社日本農業新聞

後援 農林水産省 全国農業協同組合連合会 公益財団法人 日本豆類協会 協賛 全国味噌工業協同組合連合会 全国納豆協同組合連合会

事務局 (問い合わせ先) 株式会社日本農業新聞 〒110-8722 東京都台東区秋葉原2-3 ☎03(6281)5811 e-mail : mamekyo@agrinews.co.jp

### 過去の受賞者

- 令和4年度(第51回)  
【大豆家族経営の部】  
長野県「安田 大樹」(農林水産大臣賞)  
【大豆集団の部】  
群馬県「農事組合法人寺井」(農林水産大臣賞)  
【小豆・いんげん・落花生の部】  
千葉県「篠崎 文利」(農林水産大臣賞)
- 令和3年度(第50回)  
【大豆家族経営の部】  
茨城県「渡辺 和弘・美幸」(農林水産省農産局長賞)
- 令和2年度(第49回)  
【大豆家族経営の部】  
栃木県「相馬 亨」(農林水産省政策統括官賞)
- 平成29年度(第46回)  
【大豆経営の部】  
栃木県「相馬 計視」(全国農業協同組合中央会会長賞)
- 平成25年度(第42回)  
【大豆経営の部】  
栃木県「株式会社和氣ファーム」(農林水産大臣賞)
- 平成24年度(第41回)  
【大豆集団の部】  
埼玉県「上根転作営農組合」  
(全国農業協同組合中央会会長賞)  
【小豆・いんげん・落花生の部】  
神奈川県「清水 正夫」(農林水産大臣賞)

# 11 全国豆類経営改善共励会 関東管内 優良事例(2)

【農林水産大臣賞】第51回(令和4年度)全国豆類経営改善共励会 大豆 家族経営の部

## 高い栽培管理技術&高収穫の実現

### 安田 大樹 氏

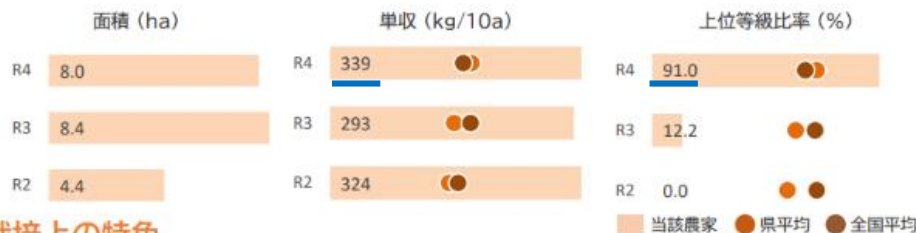
長野県安曇野市

就農年月 平成24年  
 構成農家 安田 大樹(その他家族3名)  
 基幹作物 大豆8.0ha(ナカセンナリ)、水稻13.7ha、麦類9.4ha (R4)  
 特徴 多収化と高品質生産を意識したブロックローテーション(2年3作)  
 地域内唯一の摘心栽培による倒伏防止、品質・重量の確保  
 最新機械導入による、効果的かつ省力的な作業の実施

①単収が339kg/10aと高いこと  
 ②上位等級比率91%と高いこと  
 ③開花期前の摘心処理を行い、着莢数の増加と倒伏防止に努めていることが評価されました。



## 大豆生産状況



## 栽培上の特色

- 多収化 | 水稻を挟んだ2年3作体系の実施。大豆の出来高をみて水稻期間の調節を行い、限られた農地で最大の所得を得られるよう工夫。開花期前に摘心を行い着莢数の増大と倒伏防止に努め、難防除雑草の発生を防止する為、こまめな巡回と手抜き作業を実施することで多収化につなげている。
- 省力化 | ドローンを活用した防除作業を行い、作業時間を大幅に削減。
- 新技術 | 堆肥入り炭苦土等の新資材活用を試験し、地力の維持と作業効率向上を目指す。

## 経営上の特色

- 最新技術導入により、効率的・省力的な作業を行いつつ、手をかけるべきところには労力を投入することで、長期栽培可能な環境を整備
- 施肥、播種、排水対策を同時に高速度に行う機械の導入により、省力化を実現
- 地域の圃場整備計画にも大きく関わり、地域農地を引き受けることにより耕作面積50haまで拡大予定(令和11年)

## 販売・消費拡大への取組

- 地元業者からの要望による黒豆茶専用の黒大豆の栽培や、地元加工所にて自家製味噌作りを手がける等、地産地消を意識した多様な実需者ニーズに応えようと努めている。

【農林水産大臣賞】第51回(令和4年度)全国豆類経営改善共励会 大豆 集団の部

## 後継者確保育成&地元特産品供給による地域貢献

### 農事組合法人 寺井

群馬県太田市

組合設立 昭和61年(寺井集団転作組合。平成28年に法人化)  
 構成農家 31戸  
 基幹作物 大豆7.7ha(里のほほえみ)、水稻17.1ha、麦類19.3ha (R4)  
 特徴 共同機械導入、ブロックローテーション(2年4作)による低コスト・高品質栽培  
 後継者育成に取り組み、組織の継続性を維持  
 耕作放棄地解消や地場産大豆の供給による地域貢献

①ドローン活用により生育状況を把握し、ほ場の生育の均一化にとりくんでいること  
 ②作業の効率化と省力化を実現していることが評価されました。



## 大豆生産状況



## 栽培上の特色

- 多収化 | 2年4作のブロックローテーション(大豆-小麦-水稻-小麦)による連作障害回避
- 省力化 | 圃場の区画拡大・均平を行い、機械作業の効率化を実現。また、ブロードキャスタ導入による施肥作業効率化、ハイクリブーム導入による適期防除と省力化の実現
- 新技術 | ドローンによる圃場空撮を実施し、圃場毎の生育状況の把握と収量格差解消に向けた取り組みを開始
- 湿害回避 | 弾丸暗渠と下層土塊の粗大化を目的としたカルチを施工し、湿害を軽減している。

## 経営上の特色

- 耕作放棄地、返却予定水田の積極的借り上げによる農地集積と規模拡大
- アシストスーツを導入し、収穫・選粒・色選・袋詰め等の重労働作業軽減
- 「田んぼダム」に取り組み、地域全体の水害防止に寄与
- 定年帰農者を後継者として確保・育成し、組織の継続性を意識した活動を実施
- 関係機関の実証試験に積極的に協力

## 販売・消費拡大への取組

- 近隣唯一の大豆生産組織として、地元食品会社や道の駅へ供給
- 実需者のニーズに即した加工適性の高い「里のほほえみ」への品種転換